

■■■■日本現代中国学会ニューズレター■■■■

第24, 5号合併号 2008年9月

Newsletter of The Japan Association for Modern China Studies No24,5,
September,2008

学会ホームページ : <http://wwwsoc.nii.ac.jp>

目次

巻頭言 日本現代中国学会第58回全国学術大会に寄せて

実行委員長 高見澤磨 (東京大学)

訃報

追悼 丸尾常喜君の逝去を悼む

近藤邦康 (東京大学名誉教授)

第四回太田勝洪記念中国学術研究賞 (太田賞) 発表

会務報告

常任理事会アピール (四川大地震への支援活動を——日本現代中国学会の皆様へ)

日本現代中国学会 2008~2010 年度理事名簿

【巻頭言】

日本現代中国学会第58回全国学術大会に寄せて

実行委員長 高見澤磨 (東京大学)

2008年の学会は、10月18日(土)、19日(日)に東京大学(本郷キャンパス)法文1号館で開催されます。詳細は別にお知らせいたしますが、おおよそ次のようなものになります。

18日午前は自由論題、午後に統一論題、夕方より懇親会(山上会館)、19日午前は統一論題に基づく分科会、午後は総会の後自由論題という段取りを考えております。1978年12月の中国共産党11期三中全会の画期点としての意味を問い直すことを今年の統一論題とします。教室で手っ取り早く話しを進めるには便利な画期点ではありますが、ある種の変化はもっと前に見られるでしょうし、あるいは、もっと後まで変わらないということもあるでしょう。そもそも画期を設定するという自体便宜的なことであってプロセスとして考えるべきだ、というのもっともな意見ですが、そうならばそのプロセスを示す必要があります。こうしたことをせつかくの30周年なので考えようというのが趣旨です。今年から来年にかけては中国研究は〇〇周年ものには事欠きません。そうしたもののうちのまじめな試みのひとつとして積極的にご参加いただければ幸いです。

学会開催実務上の試みとしては、可能な限り手数を減らして開催することを目

指しています。例えば、理事会（現理事会最後の理事会は17日（金）に東洋文化研究所で行う予定です。新しい理事会は18、19日の昼に法文1号館で行う予定です）を除いては、お弁当の手配はいたしません。国立大学も様変わりし、生協以外にも、キャンパス内にレストランもはいる、コンビニもできました。お食事のついでにまだ水がある三四郎池を見ていただいたり、隣の農学部キャンパス（弥生キャンパス・こちらは水戸家の屋敷でした）の「朱舜水先生終焉之地」の碑をさがしていただくなどしていただければと思います。

【訃報】日本現代中国学会理事を長く務められた小島朋之会員（慶応大学教授）が3月4日逝去されました（享年64歳）。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

【追悼】丸尾常喜君の逝去を悼む

近藤邦康（東京大学名誉教授）

現代中国学会会員の魯迅研究者丸尾常喜君、5月7日、札幌の病院にて胃癌で逝去、享年71歳。北海道大学で6年間、東京大学で5年間、大東文化大学で8年間、同時に勤務した2歳年下の最も身近な友人の思い出は多いが、出会いと別れについて述べる。

丸尾君は中国文学を専攻し、1962年東大卒業後、私立中高専任教諭をしながら大阪市立大学大学院に学んだが、教育労働と勉学が両立せず、学業を中断して母校熊本県立人吉高校専任教諭となった。1968年3月北大猪俣庄八教授に相談され依頼されて、助教授の私が彼に手紙を書き、助手就任の意思を打診した。家族の大黒柱であり郷里を離れられないという断りの手紙をもらい、札幌から2600キロ列車に乗り自宅を訪ねて説得した。彼は助手となり、10数歳年下の大学紛争世代の院生・学生にまじって「魯迅を読む会」で会話し討論し、学業に復帰し再出発した。22年間北大に勤め、北海道の風土と人情を基盤にして魯迅研究の独自の境地を切り開いた。東京転勤後も夏は毎年札幌に帰った。

2008年2月12日、大東大の博士論文審査を終えて北へ帰る丸尾君と昼食を共にし、体力が低下した彼の荷物を持って品川駅まで送った。これが今生の別れとなった。4月20日付の最後の手紙に同封された王得后「尾崎文昭教授講義“戦後日本魯迅研究”の聴講記」（『魯迅研究月刊』2008年第2期）には、丸尾常喜が丸山昇、木山英雄、伊藤虎丸と並ぶ戦後日本魯迅研究の「四人の大家」の一人として位置づけられていた。「阿Q（桂、貴 guei）は阿鬼（guei 亡霊、死者の靈魂）だ」（『魯迅「人」「鬼」の葛藤』岩波書店、1993）という大発見を始めとして業績が評価されていた。手紙では「私の位置づけは、読んで忸怩たる思いを免れませんが」と謙遜していたが、彼の深い喜びが感じられた。

私は丸尾君が残してくれた思い出や文章から力と知恵を得ながら、これからの人生を生きていきたい。

【第四回太田勝洪記念中国学術研究賞（太田賞）】

『現代中国』81号掲載論文からは、日野みどり「1970-80年代香港の青年運動——『新青学社』とその活動を通じて——」が受賞した。1月26日に授賞式がおこなわれた。

○推薦理由：

本論文は、1970年代の香港で、若年労働者向けの夜間学校「新青学社工人夜校」を運営した「新青学社」について、彼等が発行した雑誌『新青』などの資料および関係者への聞き取りを基に、その活動の理念と実際について考察したものである。新青学社はボランティアな集団管理方式で運営され、斬新な形式の授業や学生会などの組織活動、労働運動・社会運動への関与ほか多岐にわたる活動を行った。内部的には、学校運営自体を目的とするいわば社会サービス派と、学社を労働運動の拠点に育てようとするアドボカシー派の路線対立をはらみ、1985年の特別行政区区議会議員選挙に、学社のリーダーであった梁耀忠が出馬・当選したことを機に、新青学社は梁議員の所属団体に移行する形で発展的に解消した。新青学社は、学生運動を起源とする理念先行型の運動体ではあったが、学生運動の主流であった「国粋派」とも既存の労組とも一線を画し、香港の諸問題に関心を寄せ社会矛盾に異議を唱える社会派的な運動を志向し、返還後の香港における政治制度の民主化に新たな道を開いたと評価される。

本論文は豊富な文献資料と関係者のインタビューにより、新青学社の運動の過程を実証的に明らかにしただけでなく、現在の香港における政治運動、民主化運動とのつながりについても明確に示しており、問題意識、説得力ともに、太田記念賞にふさわしい論文であると判断した。

『現代中国』編集委員会

*ニューズレター編集部のミスにより、前号でお知らせできませんでした。お詫びして本号に掲載します。

【研究会・研究集会】

関東部会-4月26日に修士論文報告会を開催した。

関西部会-6月15日に第三回関西部会大会を開催した。

西日本部会-5月17日に春季研究集会を開催した。

【会務報告】

●第二回常任理事会

日時：2008年7月5日午後2時より午後5時

場所：東京大学東洋文化研究所

出席：西村理事長、瀬戸事務局長、高見澤、佐々木、岩佐、江上各常任理事および高原理事（東京大学）、平野会員（東京大学）*高原理事、平野会員は途中退席

1. 報告事項

一、第一回常任理事会以降の経過報告（事務局長）

- ・6月末現在会員数 個人会員 653 人、組織会員 4 団体 仮入会者 13 人
- ・四川大震災に際して常任理事会の会員向けアピールを作成し、ホームページに掲載した。

- ・京大人文研からの申し入れと対応

京都大学人文科学研究所より共同利用・共同研究拠点化に関する要請に応じ、理事長名による文科省への要望書を作成、送付した。

二、編集委員会報告（近く刊行される『現代中国』に譲り省略）

三、企画委員会報告（文書報告）

理事メーリングリストで送られた大西理事の案を確認した。（別項抜粋参照）

2. 審議事項

一、今年度全国大会準備（すでに送付済みの大会プログラムに譲り、省略）

二、08－10 理事選挙結果報告と関連する問題

6月20日締切の08－10理事選挙は、投票数127通であった。29日に開票がおこなわれ、第25位に同数得票者が5名いたため選管では第24位までを当選とし、第25位の扱いは常任理事会に委ねることとした旨報告があった。事務局長より辞退の場合は7月4日までに事務局長に連絡することというコメントを付して24名に当選を通知したところ、毛里和子会員から「世代交代のためすべての学会役員を辞退しているの、現中学会理事も辞退したい」との理由で辞退届があったとの報告があった。第25位の扱いについて協議した結果、現在審議中の理事長選出内規が決定されると理事長候補者は選挙理事に限定される可能性があるため、規約の規定通り選挙理事は25名とすることとした。審議の結果、第25位5名から年齢順に上位2名を当選者とし、通知することとした。（辞退の場合は7月10日までに連絡とのコメントを付して通知したところ、辞退の連絡はなく選挙理事は確定した）

推薦理事の地域部会別人数を確認し、部会単位で7月末までに確定して事務局長に通知し、全理事が決定した段階で、選挙理事・推薦理事の別なく地域部会別五十音順で新理事氏名を公表することとした。

*実際の名簿確定は9月中旬にずれこんだ。名簿は別項で掲載。

三、理事長選出内規

現中学会ではこれまで理事長選出規定がなく、すべて慣例でおこなわれていたため内規を作成することを第一回常任理事会で確認し、組織検討委員会に原案作成を依頼した。組織検討委員会高見澤委員長（常任理事）より内規案が提示され、それについて意見を交換した。

四、その他

- ・江上広報委員長より、ニューズレター発行、ホームページ管理について報告があった。今期ニューズレター（5月発行予定）は発行が遅れたので9月発行と合併にすることとした。

- ・退会者の再入会について意見を交換し、次期理事会までに更に検討することとした。

●企画委員会報告（抜粋。出版意図は常任理事会後の修正稿に基づく）

○出版企画：『中華人民共和国の 60 年(or 還暦の中国)-毛沢東から胡錦濤への連続と不連続-』

- ・ 出版社は創土社、現代中国学会編とする。正式書名は出版社と相談して決定する。印刷部は 1500 冊（予定）。
- ・ 本文は 06,07,08 年大会(関西部会)の全体会論文を中心に編集。ただし、一部 08 年大会特設分科会論文も活用する
- ・ 会員から写真も集めて多用する。略年表も作成する
- ・ 各章はなるべく 200 字詰め原稿用紙 50 枚に抑える。原稿締め切りは 08 年末。

○出版意図

日本現代中国学会は、1951 年中国研究所によって創立されて以来、関東・関西など全国各大学において毎年 1 回全国学術大会を開催し、各地で数回の研究会・講演会・講座等を開き、学会誌『現代中国』を第 81 号まで発行した。当時国交がなかった中華人民共和国を主要な研究対象として、これを政治・法律・経済・社会、文学・思想・歴史・芸術・科学等の多様な角度から分析するとともに、それらを総合した全体像をえがくことにつとめた。

来年 2009 年は新中国成立 60 年であり、また 1950 年に設立された本学会もほぼ 60 年となる。中国は現在急速な経済成長の真最中にあり、世界への影響力も急速に拡大。しかし、他方で格差の問題など国内矛盾の蓄積のもとで胡錦濤政権は経済成長優先政策の修正を迫られている。この中で、毛沢東の再評価を含むこの 60 年の全面的な再検討が求められている。

現代中国学会では 06 年の大会以来、こうした全体的なテーマを共通論題として議論を重ねて来た。また、今年もまたその研究の一環として鄧小平時代の再審を課題として設定している。これら全国大会・関西大会等で報告され討論され、さらに修正加筆された重要論文をまとめて国民に問うのが今回の出版の目的である。

なお、1966-76 年の中国文化大革命の時期、日本の中国研究者のなかに、文革の評価をめぐる意見の相違や対立が発生した。本学会は、改組された 1970-71 年度幹事会およびそれ以後の幹事会の下で、学会は異なる意見の間で自由に討論を行う場であるという観点に立ち、意見の相違や対立にもとづく学会組織の分裂を起さなかった。

本学会は現在もなお、異なる意見の間で自由に討論を行っている。共同事業である本書においても、掲載された諸論文の間にさまざまな意見の相違や対立がある。読者各位は、むしろこれらを参考にしながら、自主的に自らの中国認識を拡げ深めていただきたい。

=====

=

●常任理事会アピール<四川大地震への支援活動をー日本現代中国学会会員の皆様に>

(当アピールは現中學會公式サイトに掲載されました。)

5月12日午後、中国四川省での大規模な地震発生後、その災害状況のますますの深刻化が伝えられています。とくに、その被害の広範さからみて、今後の復興につながるさまざまな長期の支援活動が必要となっています。

また、こうした自然災害に対する国際的支援活動の必要性も重要な課題となっています。

会員の皆様にはすでに多くの場で行動されているものと拝察いたしますが、この事態に対して現代中国研究の一環を担う私たち研究者としても、ぜひそれぞれの場や地域社会、あるいは国際的ネットワークのなかで積極的な支援活動を推進するよう訴えるものです。

なお、より広く情報を共有できますよう会員の皆様の諸活動を事務局宛に御一報いただければ幸いです。

日本現代中国学会常任理事会 2008年5月21日

=====

●日本現代中国学会2008-2010年度理事名簿(地域部会別五十音順)

○関東部会(30名)

青山瑠妙(早稲田大学)、伊藤徳也(東京大学)、内田知行(大東文化大学)、宇野和夫(早稲田大学)、奥村哲(首都大学東京)、加茂具樹(慶應義塾大学)、川島真(東京大学)、国谷知史(新潟大学)、久保亨(信州大学)、国分良成(慶應義塾大学)、坂元ひろ子(一橋大学)、佐治俊彦(和光大学)、白井啓介(文教大学)、白水紀子(横浜国立大学)、鈴木賢(北海道大学)、園田茂人(早稲田大学)、孫安石(神奈川大学)、高原明生(東京大学)、高見澤磨(東京大学)、田島俊雄(東京大学)、田中信行(東京大学)、趙宏偉(法政大学)、土田哲夫(中央大学)、並木頼壽(東京大学)、沼崎一郎(東北大学)、丸川知雄(東京大学)、宮尾正樹(お茶の水女子大学)、村田雄二郎(東京大学)、山本真(筑波大学)、若林正丈(東京大学)

○関西部会(15名)

上原一慶(大阪商業大学)、宇野木洋(立命館大学)、大西広(京都大学)、加々美光行(愛知大学)、加藤弘之(神戸大学)、巖善平(桃山学院大学)、宇田川幸則(名古屋大学)、佐々木信彰(大阪市立大学)、菅原慶乃(関西大学)、砂山幸雄(愛知大学)、瀬戸宏(摂南大学)、田中仁(大阪大学)、辻美代(流通科学大学)、西村成雄(放送大学)、三好章(愛知大学)

○ 西日本部会 (5名)

岩佐昌暲(熊本学園大学)、小竹一彰(久留米大学)、新谷秀明(西南学院大学)、通山昭治(九州国際大学)、松岡純子(長崎県立大学)



日本現代中国学会 委託事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協 学会支援センター内

メールアドレス genchu@univcoop.or.jp

○5月発行予定のニューズレターが発行できず、合併号になってしまったこと、深くお詫びいたします。

ニューズレター編集担当 阪本ちづみ(法政大学)